

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991800018		
法人名	社会福祉法人 いわれ会		
事業所名	ぬくもりの郷グループホーム		
所在地	奈良県磯城郡川西町吐田94番地		
自己評価作成日	令和5年2月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&ijigoyosoCd=2991800018-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市高天町48番地6 森ビル5階		
訪問調査日	令和5年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

談話室には大きな窓があり、近隣の畑や木々等の緑を毎日見ることができ開放的なスペースになっています。敷地内の畑で野菜作りをし、栽培や収穫また、花の世話などを楽しくて頂き季節の移り変わりを感じて頂いています。近隣の畑を管理されている地域住民の方との交流は開設以降続いており気軽に声をかけて頂いたり、野菜や花を頂くこともあります。コロナ禍以降外出支援は行っていませんが、天気の良い日には全員屋外に出て外気浴を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は田原本町で特別養護老人ホームなどを運営している社会福祉法人で、当地でグループホームとデイサービスを町から指定管理を受けて運営している。田園に囲まれたのどかで自然あふれた環境にあり、広い敷地に建てられた1階建ての1ユニットのグループホームである。リビングは広く、ゆったりくつろげ、大きな窓から屋外の季節の変化や人の行き来を見ることが出来る。地域との交流も豊かで、災害時の協力体制も築けている。「人格の尊重、ぬくもりある介護、地域との交流」を大切にしたい理念のもと、経験豊かな職員が安心とやすらぎを感じさせている。利用者は、家庭的な雰囲気の中で、穏やかで、自分らしく生活できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につく所に理念を掲示し、都度意識をしてケアに繋げている。また、ご家族様にも見て頂けるように玄関にも掲示している。	理念を、利用者、家族、来訪者にも目の付く玄関ロビーとリビングに掲示している。会議でも確認しており、経験も勤務歴も長い職員に浸透している。外部に対して事業所の姿勢を示すと共に、事業所の日々の生活で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との交流があり、畑で出来た野菜やお花を頂いたりしている。地域行事についてはコロナ禍の為、中止している。	自治会に加入していた。入居後は広報を自治体から持ち帰ることで利用者は見ることができる。地域の行事はコロナ禍で中止しているが、役場や地域包括支援センター、町内放送、自治会長や民生委員から地域の情報を折々に頂いている。近隣住民と挨拶や立ち話をしたり、野菜を頂いたりしている。中学生の職業体験や看護学生の研修を受けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	式下中学校の職場体験は受け入れましたが、看護実習はコロナ感染拡大している時期に重なった為中止としています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回(偶数月)に開催予定、6回中4回は開催出来ましたが、8月は感染拡大傾向にあり中止し、10月は出席者が少なかった為中止とし書面で報告させていただきました。	運営推進会議は、自治会長、民生委員、町の長寿介護課職員、地域包括支援センター職員、社会福祉士、介護支援専門員が参加して実施している。会議は2ヶ月毎に開催しているが、感染状況で書面開催となることもある。事業所の活動や研修だけでなく、事故や急変なども丁寧に取り上げ、課題解決やサービス向上に力点を置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場に毎月、指定管理月間報告書と介護度利用者報告書を提出している。町からの書面での通達や電話連絡、来所により相談を行いながら協力体制を築いている。	町から指定管理を受けているため、毎月、入居者や行事の内容を町に報告している。事故報告や困難事例の相談、介護保険の手続きや生活保護の手続きなどを関係部署と連絡を取り合っている。コロナ前は地域ケア会議を実施し、困難事例で有識者から意見を頂けた機会もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の為感染状況を見ながら担当者が身体拘束廃止委員会の会議を開催、他の職員は年2回の施設内研修に参加していたが、コロナ禍の為、会議も中止になることがあり又、年2回の施設内研修も中止になったため、資料の回覧として各自で学んでいる。	身体拘束廃止委員会は、毎月法人全体で開催、職員1名が参加して、内容を全職員に周知している。昼間、玄関は施錠していない。身体拘束の事例はないが、チェック表や同意書、記録表は完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍の為感染状況を見ながら担当者が虐待防止委員会の会議を開催、他の職員は年2回の施設内研修に参加していたが、コロナ禍の為身体拘束廃止委員会同様中止となり、資料の回覧として各自で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を1名の方が利用しており司法書士の先生が成年後見制度担当者となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約又は改定等の際は、電話連絡を行い来所時に書面と口頭で説明し、理解を得てから署名と捺印を頂いている。契約の締結時は、ご本人やご家族との面談をするが、自宅に訪問し説明を行うこともある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置を行ったり、面会時に意見や要望をお聞きし、職員間で検討している。	家族の意見や要望は、来訪時や電話で聴いている。本人の望む物を差し入れしたい、歩く時間を取ってほしい、本人らしく生活させてほしい等の意向があり、出来るだけ浴のように努めている。玄関に意見箱も設置すると共に、契約書に苦情受付窓口として町及び国保団体連合会だけでなく、苦情処理第三者委員も記している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍の為GH会議開催は感染状況を見て決めているが、法人とのスカイプ会議は毎月行っており、会議内容などは共有しているまた、業務の改善も行っている。引継ぎノートを活用し各自の意見等を記入し、職員間で検討している。	2~3ヶ月に1回、ホーム職員で会議を行っている。利用者の介護内容の検討は日常的に行われており、引き継ぎノートで職員間の共有を図っている。エレクトーンが弾ける職員には、定期的に弾いて利用者に喜んで頂く等、各職員の得意を活かすことも行っている。介護経験豊かでベテランの職員が多く、利用者や家族の満足度も高い。職員にとっても、働きやすい職場と思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、同法人のDS管理者とGH管理者で勤務状況や健康管理を行っている。本部で開催している衛生委員会、主任者会議で報告、検討を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の得意分野を生かし、発揮できるような環境づくりを行っている。又、コロナ禍の為、研修には行けていないが、資料の回覧により各自で学び、ケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部の各種サービスの職員や外部の方とで、情報を集め発信し、ケアの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に、生活歴や現在の生活状況を記入して頂くよう用紙をお渡ししています。その情報を活用し、関り耳を傾ける事で不安や要望を聞き出せる環境づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始までのご家族様に来所して頂き、施設入所の説明や生活歴の聞き取りを行っている。入居後もコミュニケーションを図る事で関係作りを行い、信頼関係へ繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明の際、他施設サービスの種類や役割等をお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までしてこられてきた衣食住を手伝って頂き共に行っていたが、コロナ禍の為、食事の手伝いは中止し職員で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時にご本人様の現状を伝え、ご家族様の思いもお聞きし、協力もお願いしながら共に支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、馴染みの人や場へ行けていないが、忘れる事が無いように会話の中に取り入れている。	神社の巫女をされていた方に、正月に巫女を演じてもらったり、読書が好きな方、歌が好きな方など利用者の好みに応じた会話を楽しんでいる。写真入りの「グループホームだより」を年4回発行し、コメントも書き添えて家族に送付し、喜んでいただいている。面会は、コロナ禍でも玄関ロビーでアクリルパーテーションを設置し、双方マスクを着用で対面で行えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を行うテーブル席やソファの座席は入居者同士のトラブルも無く、1人1人が安心できる場所となるように入居者同士の関係性に配慮した席の位置にしている。4/9		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、ご家族様から相談があれば対応して協力体制を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から聞き取りを行い、思いや希望を把握する。意思疎通の難しい方は、表情や言動から汲み取るようにしている。	利用開始時に、ホーム独自で作成した書面に生活歴、趣味趣向、得意などを家族に記入してもらい、意向の把握に努めている。入居後は、ゆっくり関わることで、希望や好みを聴取している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様が話せる方とは聞き取りを行い、話せない方はご家族様からの情報を下に生活歴を把握し、アセスメント表の作成を行い職員間で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調面や表情を確認し、小さな変化は支援経過別紙又は、個人ノートに記録して職員全体で把握してケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活状況や特記事項を下にご本人様、ご家族様等で話し合い、ご本人様に適した介護計画を計画作成担当者が作成している。	介護計画は、利用者や家族の意向を踏まえ、利用者個々の生活全般の解決すべき課題を考えて作成している。内容は全身状態や日常生活動作能力だけでなく、精神面にも配慮している。モニタリングをし、半年毎に更新している。	介護計画は詳細に作成されているが、既に現場で提供されている趣味趣向、得意、生きがい等への支援の具体的な内容もあれば、利用者や家族にもさらに喜ばれると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様の日々の状況や実践したことを個別記録表に記録し、職員間で情報共有を行い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況の変化があれば、その都度ご家族様に説明を行い、話し合いの場を持ち協力体制を整えながら、ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣りにある同法人のデイサービスに地域ボランティアさんの来訪時に参加したり、こども園の園児さんと交流を持ち、楽しみを持っていたが、現在コロナ禍の為、参加や交流は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、協力医の往診があり。9名の内、4名は入居前からのかかりつけ医にご家族様と受診。、必要な際は書面で情報提供を行い又、他病院への受診時も必要な際はご家族様と職員で付き添っている。	内科の協力医が、月1回訪問診療をしている。他の医師を希望される方は、原則家族が付き添いで外来受診している。歯科医は随時往診してもらえる。また、隣のデイサービスに勤務する看護師に、365日毎日関わってもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎日、全員のバイタルを測定している。健康状態を相談し、必要があればご家族様や協力医に連絡を行い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を(サマリー作成)を行い、退院時には退院カンファレンスに参加。入院中に面会を行い、ご家族様と退院後についての話し合いを行っていたが、コロナ禍の為、電話連絡を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、ご家族様に方針について説明しており、身体の変化や重度化の傾向がある場合にはご家族様と話し合いの場を持ち、必要なサービスを説明し、不安の無いように連携を行っている。	入居時に、重度化対応・終末期対応指針を家族に説明し、同意を得ている。現状、十分な終末期対応を構築できているとは言えないが、家族の希望で、この1年で1人看取った。またホーム内で急変事例を経験し、終末期医療の事前の意思確認の必要性も感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。急変時や事故発生時に落ち着いて対応が出来るように定期的な研修に参加していたが、コロナ禍の為、参加できず。各自で勉強し、対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練をぬくもりの郷全体で行っている。又、緊急連絡網や地域の協力関係者の整備を行っている。	夜間想定も含め避難訓練を年3回実施し、内2回は隣のデイサービスと合同で行っている。緊急マニュアルを策定し、夜勤勤務に入る際、手順を確認している。緊急連絡網も完備している。すぐ北が大和川で浸水想定地域であり、実際に隣の社会福祉協議会2階に避難したことがある。備蓄は、水・粥を1週間分と防災頭巾、防寒シートを人数分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあるようにその人の人格を尊重できるように1人1人に合ったケアを心がけている。又、個人情報の重要性を認識し、適正な保護が出来るよう職員間で都度意識し、注意を行い対応している。	利用者の意思及び人格を尊重した介護に努めている。他の利用者との交流を促しているが、居室で1人で過ごすこともできる。利用者の呼名は苗字に「さん」付けを基本としているが、フルネームの方や下の名前の方など、本人がわかりやすい名前で呼ぶこともある。個人情報、家族の承認をえた範囲での取り扱いをしている。職員全員が女性で、同性介助の希望に沿えないこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をする時間を持ち、ご本人様からの思いや希望が聞き取れるように又、ふとした瞬間の言葉や表情を見逃さないようにしている。言葉掛けを行い、自己決定ができるようにケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩の時間やテレビの視聴、過ごしたい居場所をご本人様に確認しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができる方はして頂いている。衣替えはご家族様に協力を依頼し、ご本人様が好んでいた衣類や物等を持参して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から聞き取りを行い、月に1～2回程度、食べたいものや好きな物を献立にして、楽しく食事をして頂いている。コロナ禍のため、準備や片付けは中止し、味覚、嗅覚、視覚で楽しんで頂いている。	毎食、栄養士作成のメニューで同法人の厨房職員が作った料理を提供している。月1・2回、利用者の希望を聞き、海鮮丼や串カツなど、手作りのランチを楽しんでいる。職員も同じメニューを会話を楽しみながらいただいている。コロナ禍前は、外食やお弁当持参で公園に出かけたりしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主に栄養士が作成した献立表で食事提供している。1人1人に合った食事量、食事形態で対応している。水分も1人1人に合った形態で対応し、確保は出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後の歯磨き、昼食後のうがいをを行い、トイレ後にも手洗いの後に都度うがいをお茶で行っている。夜間は義歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄周期を把握。失敗しないでトイレで排泄が出来るように支援を行っている。夜間はポータブルトイレを設置し、安全に排泄動作が出来るように見守りを行っている。	トイレ誘導や介助が必要な方も、全員トイレに座って排泄ができるように支援しており、自然排便を促し、日々気持ちよく過ごして頂けるよう努力している。朝食後に座ってもらい、時には腹部のマッサージをすることもある。医師の指導により、下剤を服用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等で体を動かしたり、バランスの良い食事とこまめに水分を促し、便秘予防に努めている。個々の排泄周期を把握し、タイミングに合わせてトイレ通いをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴できるように浴室を管理している。その日の清潔状況やご本人様の希望に合わせて入浴を行っている。	毎日午前中に入浴できるように準備している。希望者は毎日でも入浴することができる。個人浴槽の他に広い浴槽もあり、ゆったりと入浴することができる。脱衣場にはソファがあり、のんびり会話を楽しむことができる。入浴剤は足浴の時に使用している。ゆず湯、しょうぶ湯で季節を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度調整や照明コントロールをして、出来るだけ使い慣れた寝具を持ち込んで頂き、安眠できるように支援をしている。起床や就寝時間は個々の習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを作成し、服薬内容や作用を把握できるように事務所に設置している。飲み忘れや飲み残しが無いように服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様やご家族様からの情報より、生活習慣を把握し、好みの作業を取り入れたり、その方に合った環境づくりに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の会話から外出を聞き出せるように意識して交流を行い、実現できるように支援を沿っていたが、現在コロナ禍の為、外出はできていない。	コロナ禍で計画的な外出はできず、それぞれの方の病院受診時や家族との外出に限られている。天気の良い日は広い敷地内を散歩したり、ベンチに座ってお茶や会話を楽しんでいる。リビングからも外の景色を見ることができ、窓を開ければ外気に触れることができる。コロナ禍が終息すれば、以前の生活へ徐々に戻していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物の際は、各自財布を準備し自身で支払いが出来るように支援をしていたが、現在コロナ禍の為、お金の所持や使うことの支援は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な場合は電話連絡をして頂いている。又ご家族様、ご友人様宛に年賀状作成の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方と作る壁飾りや季節感のある生け花や雛飾りなどの置物を設置している。又、太陽光が室内に入るように窓や居室ドアを開閉、新鮮な空気と適温で過ごせるように換気や冷暖房具を活用して室内環境を調整している。	広いリビングは、2面が大きな窓ガラスがあり、外の景色が自然と目に入って開放感があり、椅子やテーブルだけでなくソファもあって寛ぐことができる。お雛様が飾られ、壁には季節感のある大きな貼り絵が飾られている。居間ではテレビを観ている方やテーブルでおしゃべりしながら洗濯物たたみをしている方など、和やかな雰囲気が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で集まれる居場所や、少人数で過ごせる居場所をソファやテーブルで確保し、独りの居場所も自身の部屋で過ごして頂けるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある寝具や家具、食器、、家族との写真を設置している。又、ご家族様にも自宅で使用されていた物をGHでも利用して頂ける旨を説明している。	居室は洋室と畳敷きの和室があり、ベッド、エアコン、カーテン、幅広のキャビネット、広い押入れが設置されている。自宅から使い慣れた物や写真などが持ち込まれ、自分らしい居室づくりがなされている。窓からは外の緑も眺めることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手すりを設置しており、その人の力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫して生活リハビリを支援している。		